

6. 佐賀県の自然環境

◆佐賀の豊かな「森・川・海」を人が未来へつなぐ

長い歴史において、佐賀の人々は、山に植林をし、川の治水と利水に力を尽くし、海に堤防を築きながら、実りある豊かな暮らしをつくりあげてきました。先人たちが大切に育み残してくれた壮大な森川海は、私たちの今を支えています。

「森川海人っプロジェクト」は、佐賀の豊かな「森・川・海」を人が未来へつなぐ取り組みです。

プロジェクトを通して、ひとりひとりが「森川海はひとつ」という思いをもつことで、次の世代の豊かな暮らしへつなげます。



森川海人っプロジェクトはどんな取り組み？

森川海人っプロジェクトでは、県民の皆さんに森川海のつながりや管理の重要性を知ってもらい、森川海での保全活動などの行動につなげてもらうために、以下のような取り組みを行っています。

▼波戸岬ビーチクリーンアップ



▼森川海人っフェス



▼kurokami camp 2024



▼森川海人っサミット



▼森川海人っ教室



▼普及啓発グッズの作成



他にも、、、

▼豊かな自然を未来につなぐ森川海人っ森づくり協定の締結

▼チーム森川海人っの募集

▼フィールドマスター（自然体験スクールや清掃活動などに積極的に取り組んでいる方）の認定

▼森川海人っプロジェクト公式 HP・SNS での情報発信 など様々な取り組みを行っています。

地球を巡りつづける壮大な水の旅

水は姿を変えながら、地球上を旅しています。

太陽の熱によって海や陸の水が蒸発、水蒸気となって上空にのぼっていきます。水蒸気はやがて雲となり、雨や雪となって地上に降りそそぎます。

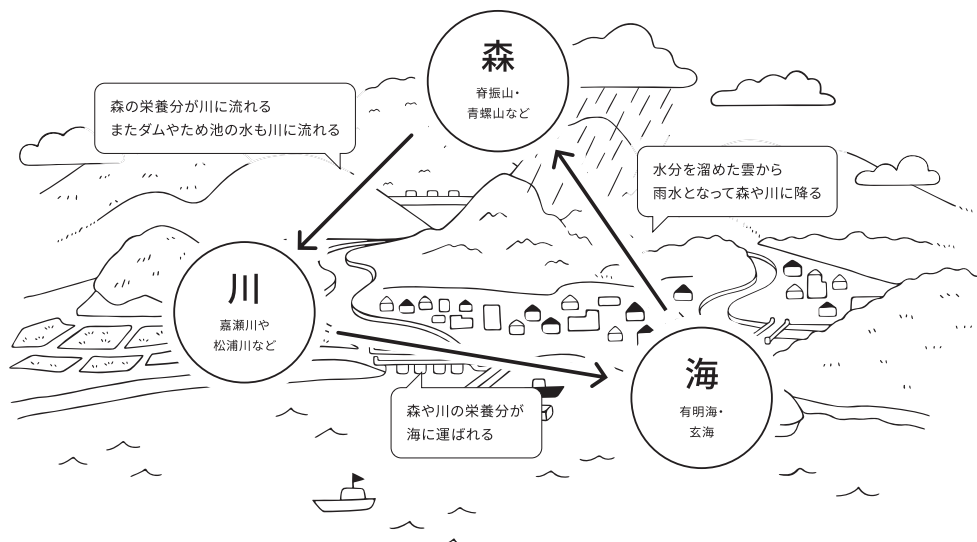
山に降った雨は、地面に染み込んだ地下水や、地表を流れる水となって少しずつ川に流れていきます。

川の水はわたしたちの飲み水や生活、農業、工場などで使われる水となり、多くの生き物を育みながらやがて海にたどり着くのです。

このように、森・川・海がそれぞれつながって、くりかえしめぐり続けることを「循環」といいます。

水が循環し続けるには、森・川・海がそれぞれ元気であることが大切です。

森・川・海はつながっています



わたしたちにできること

日々の暮らしの中でできることに少しずつ取り組んでいきましょう。
取り組みの輪の広がりが佐賀の豊かな自然を守ることにつながります。



1 森・川・海の自然を楽しむ、知る

- 森を散策する、登山を楽しむ、山歩きをする
- 水がどこから流れてきているのか、考えてみる
- 川や海で魚釣りや水遊びを楽しむ
- 森川海のイベントに参加する



2 森・川・海を大切に思い、暮らしの中で資源を使う

- 県産木材を大切に使う
- 水は必要な分だけ使う
- 県産の農林水産物や旬のものを食べる



3 森・川・海にすんでいる生き物を思う

- 生き物がすみやすい環境を守る
- 森・川・海にすむ生き物（鳥、昆虫、魚など）の動きや暮らしを観察したり、図鑑で調べてみる
- 田んぼやクレーク（農業用排水路）にすむ生き物を観察する



4 森・川・海を大切に思い、ゴミを見かけない街にする

- 指定の場所にゴミを捨てる、持ち帰る
- 調理くずや油を川や家の排水口に流さない
- 食べ残しや飲み残しが残らないよう、食事は必要な分だけ用意する
- 使い捨てプラスチックの使用を減らす



◆ し ぜん こう えん 自然公園

すぐれた自然の風景地をまもる必要がある場所を自然公園として指定しており、県内には、国定公園が1か所、県立自然公園が6か所あります。自然公園には、レクリエーションや自然学習などの自然とふれあうための施設（キャンプ場や展望台など）が整備されています。一方で、自然をまもるため、看板や建物などを作ったり、木を切ったりする場合は、県の許可や市町への届出が必要になっています。

◆ し ぜん 九州自然歩道

九州自然歩道は、九州を一周する自然観察歩道です。歩道の全長は約2,900kmにもおよび、佐賀県内は長崎県境の栗ノ木峠から福岡県境の基山まで総延長約125kmとなっています。



げんかい 玄海国定公園七ツ釜
(唐津市)



げんかい 玄海国定公園虹の松原
(唐津市)



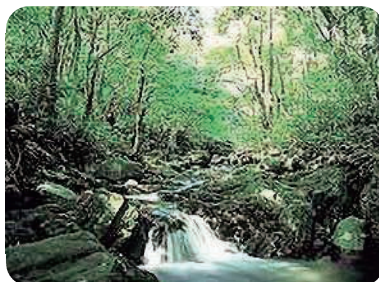
はちまんだけ 八幡岳 (唐津市、多久市、伊万里市、武雄市)



くろかみ 黒髪山
(伊万里市、武雄市、有田町)



たらだけ 多良岳県自然環境保全地域
(太良町)



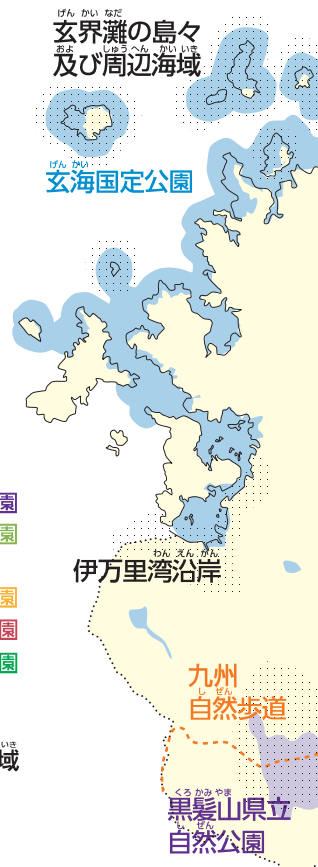
りゅうもんきょう 竜門峡
(有田町)



げんかい 玄海国定公園いろは島
(唐津市肥前町)



げんかい 玄海国定公園波戸岬
(唐津市鎮西町)



- げんかい 玄海国定公園
- くろかみ 黒髪山県立自然公園
- たらだけ 多良岳県立自然公園
- あまの 天山県立自然公園
- はちまんだけ 八幡岳県立自然公園
- がわ 川上金立県立自然公園
- きん 脊振北山県立自然公園
- 自然環境保全地域
- 九州自然歩道
- 生物多様性重要地域

◆県自然環境保全地域

すぐれた自然環境をまもるために、**檜原湿原**と**多良岳山頂付近**を県自然環境保全地域に指定しています。県民共有の財産として、将来にわたりももっていくため、保全地域内での森林伐採などには県の許可が必要です。また、貴重な動植物は、採取・捕獲が原則禁止されています。

◆生物多様性重要地域

豊かな生態系が維持されている地域を生物多様性重要地域に指定して、生物多様性に関する県民意識の向上を目指しています。「**黒髪山系及び周辺**」「**佐賀平野のクリークや水路**」「**有明海沿岸**」「**玄界灘の島々及び周辺海域**」「**脊振山系**」「**天山**」「**伊万里湾沿岸**」「**唐津市及び伊万里市の里山草原**」「**経ヶ岳及びその周辺**」「**大野原及び周辺ため池**」の10カ所を選定しています。



檜原県自然環境保全地域
(唐津市七山)



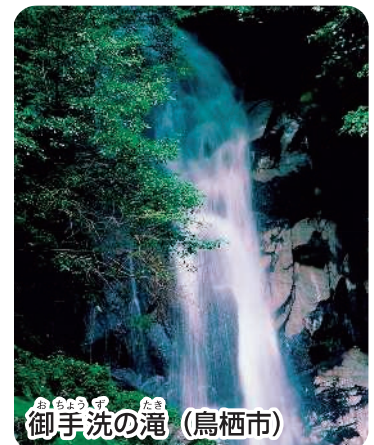
九州自然歩道



北山湖 (佐賀市富士町・三瀬村)



川上峡 (佐賀市大和町)



御手洗の滝 (鳥栖市)



公園名	面積(ha)	指定年月日
玄海国定公園	3,924	昭和 31.6.1
県立自然公園	黒髪山	昭和 12.7.5
	多良岳	昭和 27.12.24
	天山	昭和 45.10.1
	八幡岳	昭和 45.10.1
	脊振北山	昭和 50.12.12
	川上金立	昭和 50.12.12
	八幡岳	昭和 45.10.1

◆佐賀県の貴重な自然

○^{かしばるしつげん} 桧原湿原 (唐津市七山)

ハッチョウトンボ、サギソウ、トキソウなどのめずらしい動植物が生きています。



ハッチョウトンボ



トキソウ



サギソウ



モートン
イトトンボ

○^{たらだけ} 多良岳 (太良町)

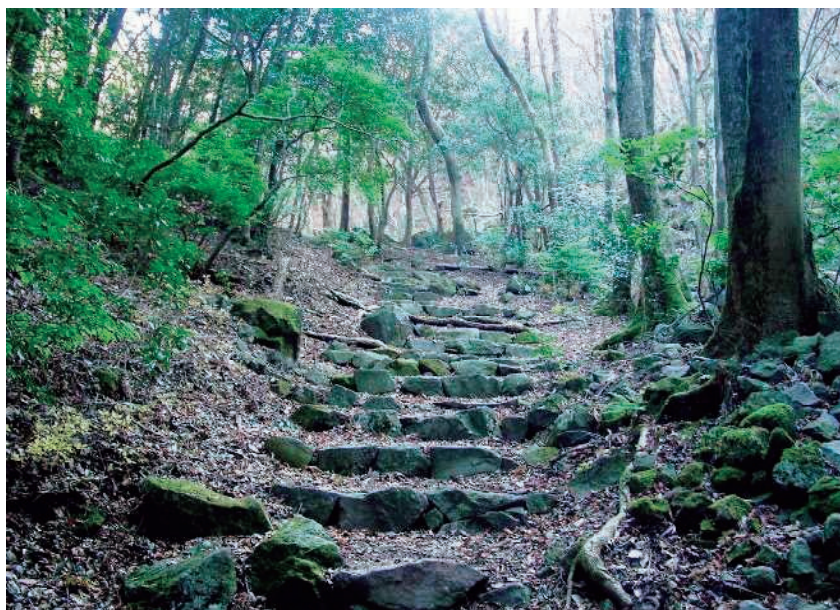
国の天然記念物のヤマネやブチサンショウウオ、チャルメルソウなどのめずらしい動植物が生きています。また天然^{てんねん}のブナやケヤキの林があるところもあります。



ブチサンショウウオ



ヤマネ



○有明海

ムツゴロウ、オオシャミセンガイ、アリアケヒメシラウオなどのめずらしい生物がすんでいます。また、数少ないシチメンソウの自生地としても知られています。



シチメンソウ



ムツゴロウ



オオシャミセンガイ



アリアケヒメシラウオ

○川やクリーク

佐賀平野の川やクリークは日本有数の^{たんすい}淡水魚の^{ほうこ}宝庫となっています。



多布施川



ミツホンバラタナゴ



オヤニラミ



カワバタモロコ

○ラムサール条約登録湿地

2015年5月28日、佐賀市の「東よか干潟」と鹿島市の「肥前鹿島干潟」が佐賀県で初めてラムサール条約湿地に登録されました。

ラムサール条約は、正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。1971年にイランの町、ラムサールで結ばれたのでラムサール条約と呼ばれています。

干潟には、鳥のえさとなるたくさんの生き物がくらしているのです。条約を結んでいる国は、世界の重要な湿地の自然をこわさないよう協力しています。私たちも世界の重要な湿地を利用している渡り鳥たちのためにも干潟をみんなでまもる必要があります。



南西から見た東よか干潟の全景
(出典：環境省「日本のラムサール条約湿地」)



北西から見た肥前鹿島干潟の全景
(出典：環境省「日本のラムサール条約湿地」)



干潟表面の珪藻（藻のなかま）を食べる
絶滅きぐ種のムツゴロウ（撮影：中村安弘）



干潟で遊ぶ絶滅きぐ種の
クロツラヘラサギ
(撮影：中村安弘)

干潟 生き物図鑑

検索

有明海の干潟の生き物を見に行ってみよう！
http://sy.pref.saga.lg.jp/higata_ikimono/

◆^か変わりゆく生き物

わたしたちが住む佐賀県の自然の中には、鳥、ほ^{にゅうい}乳類、植物、昆虫、魚、両生類、は虫類^{ちゅうるい}などのたくさんの生き物がすんでいました。しかし、最近^{さいしん}は人間による開発や、外来生物、気候変動^{きこうへんどう}などの影響^{えいきょう}により、生き物の生活環境^{せいかくかん}が大きく変わってきました。その結果、昔はたくさんいた生き物が少なくなり、絶滅^{ぜつめつ}のおそれのある動植物の種類が増えています。

^{ぜつめつ}絶滅のおそれのある動植物（^{ぜつめつ}絶滅きぐ種^{しゅ}）

生き物の生活環境が変わってしまったため、昔からいた動植物の種類がだんだん減ってきています。その中でも、数がとても少なく、滅^{ほろ}んでしまうおそれのある動植物を「絶滅きぐ種^{ぜつめつしゅ}」といいます。佐賀県では現在、931種の絶滅危惧種がいます。



クロカミラン
人の採取^{さいしゅ}により
数が減っている。



アゲマキガイ

有明海に生息、昔は普通^{ふつう}に見られたがとても数が減っている。



ツクシガモ
干潟^{ひがた}の減少^{げんしょう}により数が減っている。



ゲンゴロウ

昔は普通^{ふつう}に見られたが、生息地^{せいしき}の埋め立てや雑木林^{ざうきりん}の伐採^{はっさい}により数が減っている。



アリアケスジシマドジョウ
農地の整備^{せいび}や水質汚濁^{すいしつおたく}などが原因^{げんいん}で数が減っている。

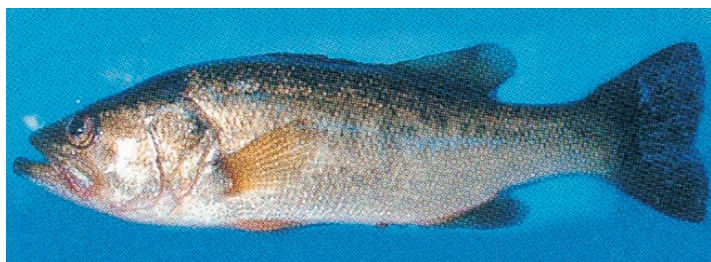


ベッコウトンボ

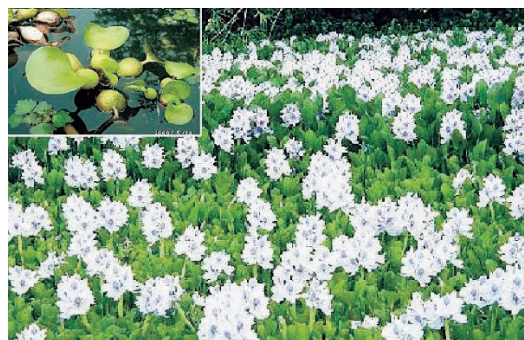
県内ではほとんど見られなくなっている。

がいらいせいぶつ がいらいしゅ
外来生物 (外来種)

もともといなかった国や地域に、人間によって持ち込まれた生き物を「外来生物 (外来種)」といい、昔からすんでいた生き物を「在来種」といいます。外来生物は、人間によってペットや観賞用・食用として持ち込まれたり、貨物といっしょに連れてこられたりしたものもあります。在来種を食べたり、在来種のエサや生息環境を奪ったりすることで、生態系のバランスをくずすなどして大きな問題となっています。



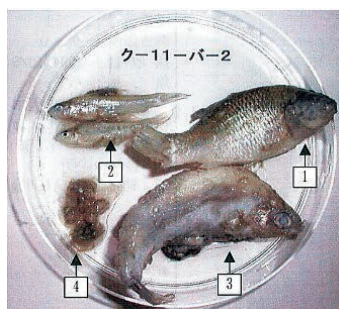
ブラックバス (オオクチバス)
在来の魚介類などを食べたりします。



ホテイアオイ
水面を埋めつくして日光をさえぎり、冬には枯れて水質悪化の原因となり、他の動植物が生きていけなくなったりします。

オオクチバスの胃の中に入っていたもの
食べたもの

- ① フナ (1)
- ② モツゴ (2)
- ③ タナゴ (1)
- ④ 消化物



◆佐賀県にいる外来生物

植物



オオキンケイギク



ブラジルチドメグサ



オオフサモ

(写真:岡山理科大学波田研究室)



オオカワデシヤ



ボタンウキクサ

魚類



ブルーギル



カダヤシ



タイリクバラタナゴ

ほ乳類



アライグマ

は虫類



ワニガメ

じょうけんつき

条件付特定外来生物

2023年6月から法律で指定されました。飼育されている個体が多いため、一般の人がペットとして飼育することはできますが、外へ放つこと、販売・購入は禁止されています。



写真 (一財) 自然環境研究センター

アメリカザリガニ

水草や魚類、両生類、水生昆虫、貝など、なんでも食べます。



ミシシippアカミミガメ (ミドリガメ)

もともからいたカメの日光浴の場やエサを奪ったりします。水草やさまざまな水生生物を食べます。

生物の多^た様^{よう}性^{せい}の危^き機

地球上には、3,000 万種ともいわれる多様な生きものが、山、森、川、海などのさまざまな環境の中で支え合って、お互いに関係しながら生きています。しかし人間の活動による影響で生きものが少なくなったりして、生態系のバランスがくずれてきています。

第1 の危機

開^{らん}発^{かく}や乱^{らん}獲^{かく}

人間の生活を豊かにするために生き物が捕まえられたり、住みかをうばわれています。



第2 の危機

人の手が入らなくなった里地・里山

山や田畑の手入れをする人が少なくなり、里地・里山に住んでいた生き物が住みにくい場所になってきています。



第3 の危機

がいらいせいぶつ 外来生物による被害

人間が他の地域から持ち込んだ外来生物が増え、もともとそこに住んでいた生き物たちのバランスが崩れています。



第4 の危機

地球環境の変化

地球温暖化など地球全体にかかわる環境の変化により、生きものの住みかが失われています。



わたしたちに できること

- 近く^{し ぜん}の自然^{かんさつ}を観察して、どうしたらいいか、家族や地域^{ち い き}の人たちとを考えてみよう。
- イヌ、ネコ、カメ、魚などのペットを飼うときは、最後までめんどうをみよう。
- 水そうや花だんなどで動植物を育てるときは、周りに出て行かないように注意しよう。
- ブラックバス（オオクチバス）やブルーギルなどの外来種^{がいらいしゅ}は放流しないようにしよう。